

「家族で移住し、トマト農家になりました！」

近藤 準 (40歳) 新規参入
(久万高原町)



1 就農の動機・理由

父の経営する新聞販売業を手伝っていましたが、「自然豊かな所で子供たちを育てたい」と考え、以前から興味があった農業をしようと決意した。

趣味で木工教室に通っていた縁があった久万高原町を選び、令和2年の春に家族で移住した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和3年)	現在の経営 (令和4年)	将来の経営 (令和7年)
労働力	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)
経営耕地	水田 56a	水田 56a	水田 56a
経営内容	夏秋トマト 20a (雨除け施設)	夏秋トマト 20a (雨除け施設)	夏秋トマト 20a (雨除け施設)

○農業用施設

ビニールハウス 4棟 2,053 m²
農業用倉庫(パイプハウス) 1棟

○主要農業機械

軽トラック 1台
養液土耕システム 1式(2,053 m²分)
自走式防除機 1台
動力噴霧器 1台
刈払機 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県西条市

職歴 新聞販売業勤務

就農研修歴

久万農業公園

(R2. 4. 1~R3. 3. 31)

就農年月 令和3年4月

(2) 就農時の思い

本格的に農業をしたことがなく、「ものすごく大変だな」というのが第一印象であった。ハウスの管理から機械の修理まですべて自分でしなければならない。でも逆に自分達のペースでやれるのが良いと思っていた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

久万農業公園での研修期間中、夫婦で雨除けハウス7棟を任せられ、トマトの接ぎ木から定植・管理・収穫に関する知識や技術を学んだ。わからない事があれば農業公園や農業指導班の方が教えてくれた。

また、近くに住む先輩農家の方も度々見に来てくれ栽培のコツなど教えてくれて大変心強かった。

(2) 資金の準備

久万高原農業公社から新設のビニールハウス、養液土耕システム一式などトマト栽培を始めるために必要な施設・機械を賃借(リース)した(同公社の農業機械・施設整備補助金も活用)。

就農後は農業次世代人材投資事業(経営開始型)を受給している。

(3) 農地・住宅の確保

住宅については、移住時に久万高原町役場を通じて紹介してもらった。築年数が経っており改修が必要だが、町の補助があるので活用予定。

農地は、研修期間中から久万高原農業公社を通じて就農地の選択や農地の仲介等をしてもらい、農地中間管理機構を通じて借りることができた。

(4) その他苦労したこと

研修期間中にビニールハウスを自ら建てたことが一番大変だった。何から手を付けてよいかわからず、農業公園の研修生や先輩農家に手伝ってもらいながら約3カ月、トマト栽培がスタートする4月に何とか間に合った。

その後はトマトの栽培管理に秋まで追われあっという間の7カ月だった。夫婦でがむしゃらに働いていたので、子ども達の相手をあまりしてやれなかったのが気がかりだった。

5 農業経営の特徴

JA松山市のトマト部会に加入し、エコえひめ(特別栽培農産物認証制度)に取り組んでいる。

トマト部会青年部活動にも参加し、同世代の農業者と栽培の悩みや作業効率化について情報交換している。

6 これからの夢

自分の身体と家庭のバランスを取りながら、自分のペースで10年、20年と楽しみながら長く仕事を続けていきたい。

今はトマト栽培のみだが、今後余裕ができれば水稲栽培もしてみたいと考えている。

7 成功したキーポイント

周りに同じトマト農家の先輩たちがいたので、とても参考になった。

また、子どもの学校行事や地域活動にも積極的に参加し、農業以外のつながりもでき、仲間もできた。

就農したばかりなので、現在の経営が成功しているとは思っていないが、来年度は今以上に収量をあげられるよう頑張りたい。

8 就農を目指す方へのアドバイス

最初は先輩農家の培ってきた基本的な技術や考え方を身につけておくべきです。好きこそ物の上手なれ、失敗は過程であり経験となる、ワクワクを大切に！

○ 指導機関からのひとこと

1年の研修期間中にトマト栽培技術習得や雪の中でのハウス建設。春から本格的なトマト栽培がスタート、本当に大変だったと思います。地域の担い手として活躍されることを期待しております！

執筆機関

中予地方局農業振興課地域農業育成室

久万高原農業指導班

電話番号 0892-21-0314



トマトの管理作業